校長室からのお知らせ

９月２日　NO.18

岸和田市立山直北小学校
校　長　尾　野　武　志

読書の習慣

今年の夏休み、様々な種類の本を読むことができました。正直にお伝えしますと、決して教育に関係するものばかりではなく、池波正太郎さんの時代物や上橋菜穂子さんのファンタジー等に時間を忘れて夢中になり、JR 桃谷駅で降りるはずが気づいたら玉造駅や森ノ宮駅だったこともありました。しかしながら、最初の数ページで興味がなくなってしまい、記憶にさえ残っていない本も数冊あります。自分が惹きつけられる本に出合うのは、結構難しいと思います。

さて、保護者の方がお子さまに読ませたい本というのは多々あると思いますが、お子さまが読みたい本と一致しないことが多いのではないでしょうか。しかしながら、珍しく夢中になって読んだ教育書に、「【親が読ませたい本】よりも【親が読んで楽しい本】を子どもに読ませなさい」と書かれていました。名作じゃなくても、ベストセラーでなくてもいいそうです。大切なのは、親子で同じ本を読んだことと、読んだ後に親子でその本について話し合うことになるそうです。

登場人物の人柄を想像し合ったり、登場人物と同じ立場に立たされたらどのようにふるまうかを話し合ったりすることで、読書の効果は何倍にもなるそうです。そして、この経験が子どもを本好きに近づけていくそうです。

学級担任をしていたころ、保護者の方から「うちの子、全然本を読まないんです。先生、どうしたらいいですか。」という相談を受けたことが、何度かあります。正しい答えを持っていなかったのですが、「お母さんは、本を読まれますか。テレビを消して、家族が一つの部屋で静かに本を読む時間を作ると自然に本を読むようになると思いますよ。」と伝えていました。必ずうまくいく方法とは言えませんが、テレビを消されて親が本を読み始めると、結構子どもは巻き込まれて一緒に読書をすることもあったようです。しかしながら、子ども部屋があると親が本を読み始めたら子どもは自分の部屋に入ってしまって、読書作戦は初回から失敗したとのご意見も多数いただきました。

今なら、うえに書いた方法を伝えようと思います。